

議第 1号 平成 29 年度に係る事業報告について

本年度も、本会目的である「会員の研究発表、知識の交換並びに会員相互及び内外の関連学協会等との連絡提携の場となり、都市計画に関する学術の進歩普及と都市計画の進展、及び都市計画に係る専門家の資質の向上を図り、もって学術・文化・社会の発展に寄与すること」に沿って、公益法人として公益性を重視した学会運営と事業推進を図るべく、事業活動を展開いたしました。

新たな活動としては、都市計画法 50・100 周年記念事業において、都市計画学の分野における交通計画技術の科学化・総合化の大きな契機となるパーソントリップ調査 50 周年を迎え、東京及び広島にてシンポジウムを開催しました。また、今期の決算において「国際シンポジウム事業」の次回開催のため、100 万円の特定費用準備資金の積み立てを行いました。

以下、本年度の運営状況、実施事業（公益目的事業の事業区分 1～3 毎など）について記載します。なお、報告の附属明細書として記載すべき事項はありません。

Ⅰ 本会の現況と総会、理事会等の活動概要

1. 会員の異動

本年度中での入会並びに退会及び会員数は次のとおりである。

	名誉会員	正 会 員	学生会員	賛助会員	継続教育 連携会員	計
平成 29.3.31 現在	37	3,864	257	191	1,199	5,548
入 会	—	212	198	4	114	528
退 会	0	254	201	1	39	495
会員種別変更	3	△7	4	—	0	0
死 亡	1	9	0	—	0	10
平成 30.3.31 現在	39	3,806	258	194	1,274	5,572

2. 第 6 回定時総会（社員総会）

定時総会を次のとおり開催した。

日 時 平成 29 年 5 月 26 日（金）自：午後 2 時 30 分 至：午後 3 時 40 分

場 所 東京大学 農学部 弥生講堂 一条ホール

出席者数 2,084 名（委任状を含む）（総正会員数 3,864 名）

議決承認事項：

平成 28 年度に係る事業報告について

平成 28 年度に係る貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録等について

名誉会員の推薦について

理事および監事の選任について

報告事項：

平成 29 年度事業計画書について

平成 29 年度収支（損益）予算書について

細則の改正について

学会賞の受賞者について

功績賞・国際交流賞の受賞者について

2016 年年間優秀論文賞の受賞論文について

3. 理事会の開催

理事会構成は理事 24 名（内、会長 1 名、副会長 3 名、常務理事 6 名）及び監事 3 名である。平成 29 年度の理事会開催は 6 回であった。

4. 会長アドバイザー会議の開催

全体会議を平成 29 年 11 月 10 日（金）ブルックリンパーラー札幌にて開催した。

II 公益目的事業の活動概要

本会の公益目的事業を各常置委員会・特別委員会、各支部において推進した。

1. 公益事業 1（各常置委員会・特別委員会）

1-1. 調査研究事業

(1) 情報発信活動事業

●本会の情報環境の整備・充実

本会情報発信活動の推進のため、ウェブページ等を適切に運営し、多様な情報提供方策を検討した。また、都市計画に関する様々な情報を広く公開することを目的とし、E-mail を通じて会員向けに情報発信を行った。

(2) 国際交流促進事業

本会会員をはじめとした方々に、学術的また実務的な国際交流の機会を提供するため、Asian-Pacific Planning Societies（以下、APPS）2017 国際会議を名古屋市で開催した（詳細は、2-2.(2)参照）。さらに、Young Urban Planners' Network の発足に向けた準備を進め、その一環として APPS2017 国際会議にて"Urban Movie Contest"の開催、および"Best Presentation Award for Young Planners"の授与を行った。

(3) 研究交流助成事業

都市計画に関わる民・官・学を横断した組織として研究交流分科会を承認し、活動を開始した。

(4) 都市構造評価研究事業

特別委員会の下、都市構造分析・評価ツールとして都市構造可視化サイトの活用方法、機能の充実等について研究した。

1-2. 出版事業

(1) 会誌刊行事業

学会誌「都市計画」を 6 冊刊行した。

- ・ 326 号「特集：ミレニアルズと都市」
- ・ 327 号「特集：エコな街をつくる：地区スケールの環境ガバナンス」
- ・ 328 号「特集：モノの流れから都市をみる」
- ・ 329 号「特集：人口減少社会を救う「観光まちづくり」」
- ・ 330 号「特集：担い手不足・超高齢化社会・ダブルケア時代を生き抜く地域づくり」
- ・ 331 号「特集：駅再考－これからのまちと駅の関係」

(2) 論文刊行事業（学術）

都市計画論文集および都市計画報告集を発行した。

- ・ 都市計画論文集 Vol.52 No.1 および都市計画報告集 No.16（4 月 25 日発行）
- ・ 都市計画論文集 Vol.52 No.2 および No.3（10 月 25 日発行）

(3) 論文刊行事業（国際）

APPS2017 国際会議で発表するアブストラクト等の審査を行い、Proceedings を刊行した。また、「Urban and Regional Planning Review」を連携学協会（日本造園学会・日本計画行政学会）

と共同編集で J-STAGE で公開した。

(4) 近未来 DVD 化事業

日本都市計画学アーカイブスの有償配布を行った。

(5) 都市計画法周年出版事業

都市計画制度の新たな役割を担う記念企画を検討した。

1-3. 受託調査研究事業

前年度からの繰り越しを含め本年度内の受託案件は下記 3 件であった。

- ・京阪神ビジョン・テーマ研究会支援業務
- ・アジア新興国における我が国の都市開発進出方策研究
- ・都市構造可視化サイトへの KML 搭載業務

2. 公益事業 2 (各常置委員会・特別委員会)

2-1. 学術研究論文発表会事業

平成 29 年 11 月 11 日 (土)、12 日 (日) 北海道大学札幌キャンパスにおいて開催した。

- ・発表論文数：156 編
- ・ワークショップ：3 企画
- ・都市計画報告会発表数：24 件
- ・参加者：421 名

2-2. 講習会等事業

(1) 事業委員会企画事業

●都市計画セミナーの開催

平成 30 年 1 月 23 日 (火)、24 日 (水) の 2 日間にわたり、「コンパクトシティのネットワークを考える」をテーマに、東洋大学井上円了ホールにおいて開催した。

●まちづくり懇話会の開催

外部講師による懇話会を 3 回開催した。

- ・第 137 回まちづくり懇話会 (4 月 21 日開催)
「不動産ファイナンスの新潮流ーグリーンビルディングと ESG 投資」
講師：飯塚 洋史 (株式会社日本政策投資銀行)
- ・第 138 回まちづくり懇話会 (7 月 25 日開催)
「都市と農の新たな展開」
講師：諸藤 貴志 (株式会社アグリメディア)、湯澤 将憲 (国土交通省)
- ・第 139 回まちづくり懇話会 (11 月 7 日開催)
「超高齢社会対応のまちづくり」
講師：大方 潤一郎 (東京大学高齢社会総合研究機構)

●見学会の開催

現地見学会を 3 回行った。

- ・第 33 回見学会 (7 月 6 日開催)
「変わる銀座・変わらない銀座」
- ・第 34 回見学会 (11 月 2 日開催)
「東京メトロ変身中ー銀座線リニューアル、都市再生事業と連携した駅改良事業」
- ・第 35 回見学会 (11 月 22 日開催)
「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ
ー 防災公園の整備と公共施設の機能更新・再編を一体的に実現した都市再生事業」

●まちづくり拝見研修会の開催

公益財団法人都市計画協会と共催で「まちづくり拝見研修会（長崎市）」を開催した。

(2) 国際シンポジウム事業

APPS2017 国際会議を下記の通り開催した。

- ・開催日時：2017年8月24日（木）～26日（土）
- ・会場：名古屋国際会議場（名古屋市熱田区熱田西町 1-1）
- ・プログラム：
 - 8月24日 Welcome Party@ANA クラウンプラザホテル
 - 8月25日 International Conference@名古屋国際会議場
 - －Opening Ceremony
 - －Paper Presentation
 - －Special Session i) Livable City Development and High Speed Rail
 ii) Urban Movie Contest
 - －Farewell Party
 - 8月26日 Technical Tour（名古屋都市センター、リニア鉄道館、港まちづくり協議会の活動、名古屋都心部のまちづくり等を視察）
- ・参加者数：CPIJ（116名）、KPA（79名）、TIUP（19名）、VUPDA（18名）など16カ国、236名が参加
- ・論文発表数：125編（口頭発表 112編、ポスター発表 13編）

(3) 都市計画法周年行事事業

企画特別委員会の下、関係する省庁及び学協会等と連携し、都市計画のさらなる発展と会員相互の関心を一層深めることを目的とした記念シンポジウムを開催した。

(4) 全国市長会共催シンポジウム事業

過年度の活動を精査し、次年度以降の活動を有意義にするための検討期間として、今年度のシンポジウム開催を一時中止した。

(5) その他

都市計画ポスターセッション事業は一時中止した。

2-3. 都市計画継続教育制度の運営事業

都市計画技術者の継続教育（CPD）の制度化及びその認証の運営・管理について充実を図った。

- ・認定プログラム数 170件
- ・CPD ニュース No.127～No.138 発行

3. 公益事業 3（各常置委員会・特別委員会）

3-1. 表彰事業

都市計画の論文や設計等の中より優秀なものを選考し学会賞を授与した。また、都市計画の進歩発展に寄与したものと国際的交流に貢献したものを選考し、表彰した。

4. 支部活動の概要（公益事業 1, 2, 3）

4-1. 北海道支部

支部総会を4月8日に開催、支部幹事会は準備会を含め5回開催した。

第52回学術研究論文発表会（研究発表156件・参加者421名）を当番支部として11月11,12日に開催した。また発表会初日の11日夕に懇親会（参加者167名）を実施、それに先立つ11月10日にプレイベントのエクスカッション「地域産業今昔（小樽～余市を軸として、酒造り産業と地域、炭鉄港の歴史を探る）」（参加者29名）を実施した。

第1回の都市地域セミナー「軟石を生かしたまちづくり」（参加者65名）を7月27日、都市計画学会北海道支部10周年記念シンポジウムを兼ねて実施し、第2回「ガーデンによるまちづくりー花のまちの商店街の取り組み」（参加者65名）を9月9日に開催した。

4-2. 東北支部

今年度は支部設立5周年記念事業を前年度に引き続き「震災復興」をテーマに連続シンポジウムを開催した。4月22日には支部総会を開催、同日に、震災復興連続シンポジウム第4回「東日本大震災復興祈念公園を語る～陸前高田、石巻から福島復興に向けて～」を開催、横張真会長には『復興・記念・公園を考える』というタイトルで基調講演をいただいた（参加者112名）。その後、震災復興をベースに現代的な話題である立地適正化計画を議論することとして、7月22日には第5回「東北地方の地域交通の現状とこれから」を開催、60名の参加を得た。そして10月28日には、花巻市の共催により、第6回「地方都市の都市計画はどこへ向かうか」、および現地視察会を開催し、98名の参加を得た。

恒例の研究発表会は、平成30年3月3日に二年に一度の南北合同開催ということで、東北大学災害国際科学研究所にて実施し、活発な研究交流が行われた（参加者53名）。

4-3. 中部支部

支部総会（愛知県犬山市）を4月8日に開催した。総会後に犬山市長 山田拓郎氏による「犬山市の今後のまちづくりについて」の講演会、犬山城下町地区のまちづくり状況の見学会を開催した。講演会を6月14日に開催した。「人口減少時代のまちづくりを考える～都市の集約化の議論を超えて～」と題し、4名の講演者の講演とパネルディスカッションを行った。第28回支部研究発表会・シンポジウム（豊田産業文化センター）を10月20日に開催した。シンポジウムのテーマは「都心と中山間で共創するまちのにぎわい」であり、特別企画として「地域トークセッション」も行われた。その後、豊田市駅周辺の賑わいづくり事業の現場を視察した。第16回都市計画行政に関する官学連携研究会（名古屋都市センター）を平成30年1月26日に行った。国交省と名古屋市職員の取り組みの2題の報告が行われ、その後、中部支部の行政職員による議論が行われた。留学生・外国人研究員交流セミナー（名古屋都市センター）を3月9日に行い、5名の留学生の報告の後、交流を行った。

4-4. 関西支部

支部総会を4月8日に開催し、合わせて支部研究助成4件の報告を行った。同日、第19回関西まちづくり賞2件の表彰式と受賞者によるプレゼンテーションを実施した。研究発表会（28編）を7月30日に開催し、5名に奨励賞を授賞した。フィールドワーク「和歌山市のまちなかを考える～リノベーションまちづくりの潮流と展望」、「奈良県十津川村における水害からの復興と新たな村づくりへの展開」、都市計画シンポジウム「都市の観光事情と都市の変化ー大阪と京都のインバウンドの動向を踏まえて」を開催した。「都市計画・建築・土木を学ぶ留学生や学生のための見学会」、学生対象の「まちづくりの『仕事場を訪ねる』」を2回開催した。支部研究助成では継続2件に助成した。特集テーマ「道路空間の再編と利活用から取り組む都市再生」とした関西支部だよりを1回発行した。関西地域のまちづくりに関わる人材育成、まちづくりを实践する人的ネットワーク形成を図ることを目的に「都市計画セミナー：入門コース・アドバンスコース」を開催した。

4-5. 中国四国支部

支部総会および第15回支部研究発表会を4月1日に開催した。支部幹事会は会議1回、メール幹事会2回を開催した。

学術講演会1回、「観光とまちづくり」をテーマとした都市計画研究会を3回、「歴史と建築物」をキーワードとした都市計画サロンを1回、「暮らしやすい町に向けた地域の思想を読み解くこと」をテーマとしたシンポジウム1回、都市交通調査50周年記念企画としたセミナーを1回、地域活動助成2件ならびに自主研究会支援1団体を行った。支部ニューズレターは3回発刊した。

4-6. 九州支部

支部総会を4月8日に開催し、同日に特別講演会、研究発表会、ポスターセッション等を実施した。また、2件の研究分科会へ助成、都市計画サロン4回、支部表彰（九州まちづくり賞、支部長賞）、支部ニュースの発行（4回）を実施した。さらに、熊本地震災害調査特別委員会において、土地利用・交通・避難等に関する調査結果を報告書としてまとめ、平成30年2月9日にシンポジウムを開催した。

以上